

Rapport

2022
Number

116

多摩大学 | 広報誌 |



Vol.116 Contents

第13回多摩大学AL発表祭	02-03
第10回「実学の帝塚山大学」実践学生発表祭	03
〈体育会スキー部〉富高日向子さん 2022北京冬季オリンピック出場	04-05
〈体育会フットサル部〉3年連続大学日本一!	05
2021年度第2回SRC	06
飛騨高山ALプログラム2021	07
【産官学民連携センター】	
彩藤ひろみゼミが特別賞を受賞	07
梅澤佳子ゼミが奨励賞を受賞	07
多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト	08



第 13 回多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭

多摩大学では開学以来、大学内の机上の学修にとどまらず、学生が地域をはじめとする学外のフィールドに出て自らの手と足を動かして活動し、行政・企業・NPO・地域団体・地域住民などさまざまな関係主体と連携しながら、課題の発見と解決を目指すゼミ活動を行ってきました。アクティブ・ラーニング (AL) とは一般的に「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」と定義されています。開学以来実践してきた AL をさらに活性化すべく、2016 年に「アクティブ・ラーニングセンター (ALC)」を創設しました。ALC では、AL の研究・開発とプログラムの推進、FD (ファカルティ・ディベロップメント: 教員の教育力の開発)、図書・IT・学修サービス、教学マネジメントの推進を行っています。

今年度においても新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、多種多様なプロジェクト・研究などのアクティブ・ラーニングプログラムを展開してきました。その活動成果を共有する機会として、2021 年 12 月 11 日に『第 13 回多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭』を開催しました。今回は、高大接続の取り組みとして多摩大学目黒中学校・高等学校、多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校による成果発表、招待発表として、帝塚山大学 (奈良県奈良市)、東京経済大学にご参加いただきました。【URL】<https://www.tama.ac.jp/al2021/index.html>

タイトル	発表者	
世代間交流 八王子駅前サロンプロジェクト 2021	梅澤佳子ゼミ	
これからの地方都市の中心市街地・コンパクトシティ像	中庭光彦ゼミ	
地域金融機関をつなぐ力	長島剛ゼミ	
海外投資から見る日本の立場	水盛涼一ゼミ	
倭寇とモンゴル帝国史 ～大陸遊牧民と海洋渡船民～	インターゼミ (アジアダイナミズム班)	
コンビニエンスストアの新たな経済・社会的役割 ～暮らしの一部から必要不可欠な存在へ～	インターゼミ (サービスエンターテインメント班)	
多摩地域における住みよい街とは	インターゼミ (多摩学班)	
DX によるこれからの社会変化 ～自動運転とスマートシティ	インターゼミ (DX 班)	
多摩地域優良企業取材レポート体験 活動報告	AL「多摩地域優良企業取材レポート体験」	
フォトジェニックなオブジェクトの提案 (着せ替え可能さるぼぼ)	飛騨高山 AL プログラム (A グループ)	
ひまわり園での「感動」と新たな「思い出」を持ち帰る体験を	飛騨高山 AL プログラム (B グループ)	
高山市久々野町におけるフォトジェニックの提案 (カメラスタンド)	飛騨高山 AL プログラム (C グループ)	
オブジェクトと発信	飛騨高山 AL プログラム (D グループ)	
Instagram のフォロワーをどのように増やすべきか	プレゼミ X09 (良峯)・X10 (彩藤) クラス	
有限会社フレックス パジャマ屋 商品企画提案	プレゼミ X12 (葛本) クラス	
身近な町のクリーン化から始める脱マイクロプラスチック	多摩大学附属聖ヶ丘高校 1 年生	
全員で環境問題改善! 使うだけで環境のためになるボールペン	多摩大学目黒高校 起業体験 SG	
洋服リサイクルプロジェクト	多摩大学目黒高校 起業体験 SG	
コロナ環境における航空会社の取り組み	多摩大学目黒高校 投資戦略 SG	
女性の社会進出	多摩大学目黒高校 投資戦略 SG	
プログラミングを通して学んだこと	多摩大学目黒高校 プログラミング SG	
招待発表	プラスチック問題の解決に挑む! — 法学的アプローチを用いた企業及び個人への働きかけを目指して—	帝塚山大学 法学部・アドバンスクラス
	大規模高経年団地における入居者の生活スタイル研究	帝塚山大学 帝塚山×UR 団地連携プロジェクト
	東経大・小木ゼミによる企業とのコラボ活動 ～国分寺物語、TFT、こんなお菓子あったらいいな PJ、知財活用スチューデントアワード 2021～	東京経済大学 小木ゼミ

学生による発表の様子



第10回「実学の帝塚山大学」実践学生発表祭

～アクティブ・ラーニングの実践事例～

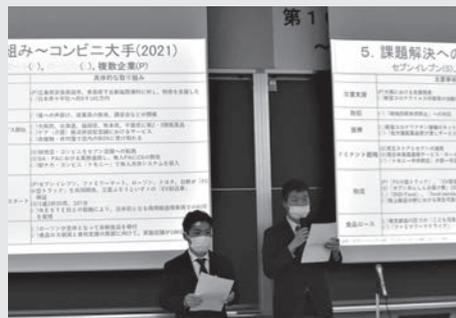
2022年2月19日、帝塚山大学東生駒キャンパス（学長：蓮花一己 所在地：奈良県奈良市）にて、「第10回『実学の帝塚山大学』実践学生発表祭～アクティブ・ラーニングの実践事例～」が開催されました。本学と帝塚山大学は「学術交流に関する包括協定」を締結しており、その一環として毎年実施されている本発表祭に、本学からインターゼミ（社会学研究会）「アジアダイナミズム班」（学生2名）と「サービス・エンターテインメント班」（学生2名）が参加しました。アジアダイナミズム班は「倭寇とモンゴル帝国史～海洋の渡海民と大陸の遊牧民」、サービス・エンターテインメント班は「コンビニエンスストアの新たな経済・社会的役割～暮らしの一部から必要不可欠な存在へ～」をテーマに、ゼミで一年間積み上げた研究成果を報告しました。今回は新たに大阪電気通信大学も加わり、3校による多様な教育研究分野の発表が行われました。

各チームの発表の最後には学生や教員から次々と質問の手が上がり、活発な質疑応答が展開されました。

帝塚山大学は昨年12月11日に本学で開催した「多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」にも参加しており、研究発表を行っています。多摩大学と帝塚山大学は、このような研究発表を軸に学生と指導教員が毎年交流を深めており、互いに切磋琢磨する貴重な機会となっています。



アジアダイナミズム班による発表



サービス・エンターテインメント班による発表



金教授による講評

〈多摩大学 体育会スキー部〉

富高日向子さん『2022 北京冬季オリンピック』 出場

多摩大学体育会スキー部の富高日向子さん（経営情報学部3年）が、2022年北京オリンピック・パラリンピック競技大会スキーフリースタイル（女子モーグル）に日本代表として出場しました。過去には本学卒業生の原歩さん（2001年卒）が2008年北京夏季オリンピックに女子サッカー代表として出場していますが、在学生のオリンピック出場は初めての快挙です。

富高選手は、河北省張家口の雲頂スノーパークで行われた競技で準々決勝に進出し、第1エアは大技のコーク720で果敢に攻め難いコースを滑りきり、初めてのオリンピックで19位という見事な成績を残しました。

帰国後の2月25日には九段サテライトにて寺島実郎学長を表敬訪問し、寺島学長と杉田文章副学長・経営情報学部長に北京オリンピックの成果報告をしました。

〈富高日向子さんインタビュー〉（2022年2月25日）

○初めて冬季オリンピックに参加した感想は？

オリンピックは子どもの頃からずっと目指していた夢の舞台だったので、北京に到着するまではふわふわと夢のような気分でした。オリンピックへの出場が決まった瞬間は「楽しみ」という気持ちが大きかったけれど、いざ試合となったら緊張感でいっぱいになりました。対戦するメンバーは同じでも、ワールドカップと全く違う緊張感がありました。

初めてのオリンピックだったので、競技に臨むときには楽しんで自分らしく思いっきり滑ることができたらという気持ちでした。予選は緊張していましたが、準々決勝では思い切り滑り楽しむことができたと思っています。

○日本チームはどんなチーム？

男女4人ずつで、ワールドカップと基本的に同じメンバー。男女ともにレベルが高く、とても強いチームです。女子同士はライバルであるけれど、教え合い高め合うとても仲の良いチームです。

○モーグルを始めたきっかけは？

3歳くらいの頃から両親にスキーに連れて行ってもらっていて、小学校1年生のときに初めてコブのレッスンを体験しました。コブを滑ることがすごく楽しくて、そこからモーグルという競技があることを知りました。

○モーグルの魅力は？

競技は、コブを滑り降りる「ターン」、技を見せる「エア」、速度を競う「スピード」で評価されます。モーグルの魅力は、技の種類が多く、選手によって滑り方も様々なので、見どころがたくさんあり見ている人も楽しめることです。私はターンが好きで得意なので、質の高いターンができるように心がけています。

○苦しいところは？

怪我の多い競技なので、特に怪我には気をつけています。なかなか良い成績が出せなかったり、思うような滑りができなかったり、

そういう苦しいときはあります。そんなときは「オリンピックに出たい」という思いで頑張ってきました。落ち込んでいても、やっぱりモーグルが好きなので、滑りたくなります。

○多摩大学に入学したきっかけは？

競技を続けながら学習も

続けられる大学を探していて、オープンキャンパスで中村その子ゼミに出会いました。モーグルは最近知名度が上がってきているけれど、競技人口としてはまだ少ないほうです。もっと強くなって、モーグルの楽しさやおもしろさを小さい子にも知ってもらいたい。選手生活を終えた後は、モーグルの良さを広められる活動をしたいと考えています。ゼミでは、自分にとって将来役に立ち、興味のあるマーケティングを学んでいます。

○学生生活と競技生活の両立は？

春学期は通学しながら授業が終わった後にトレーニングができましたが、冬季は遠征のため授業に出ることが難しくなります。それで遠征前に先生と面談して、レポート提出など学習方法を話し合います。ここ数年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、今シーズンは試合の数週間前から海外に遠征し練習をしていました。

10月から、スイスに始まりスウェーデン、フィンランド、フランス、カナダ、アメリカなどオリンピック開幕前まで、ワールドカップ出場もあり海外に滞在して試合や練習をしていました。日本は新型コロナウイルス感染症予防のための隔離期間が2週間あり、帰国したのは3日間のホテル隔離のみ。家族とはそのときに空港で会うことができました。

○選手として心がけていることは？

試合の成績も大切ですが、一番は自分が楽しんで滑りたいという思い、楽しまないもったいないと思っています。予選は決勝へ進むために失敗できないので、すごく緊張します。決勝に進んだら、思いっきり滑ろうと切り替えられるので、決勝は結構楽しいんです。それに緊張することは悪いことではなくて、緊張した中でいかに自分の力を発揮できるかが大切だと思っています。

アニメやYouTubeが好きなので、遠征中のオフの日は、ストレッチをしながらお気に入りのYouTubeを見たりしてリフレッシュしています。選手村でもいろんな部屋からYouTubeの音が聞こえてきたので、みんな見ていたのかもしれない。

今回のオリンピックでは、教職員の方や学生の皆さんのメッセージが書かれた応援旗をもらい、それがすごくうれしくて本当に励みになりました。ここまで来ることができたのは、たくさんの応援やサポートのおかげです。自分自身ももっと強い選手になりたいという思いはもちろんありますが、滑りで恩返しができる選手になりたいと思っています。

○多摩大生へのメッセージ

たくさんの応援は力になりました。ありがとうございます。4年後のオリンピックを目指して頑張りますので、引き続き応援をよろしくをお願いします。





(写真左) 近隣の応援の様子 永山駅
学内の応援の様子 多摩キャンパス



学長表敬訪問 (右から寺島学長、富高さん、杉田副学長・学部長)

※撮影時のみマスクを外しています。



日本チームのユニフォーム姿の富高さん

〈多摩大学 体育会フットサル部〉 3年連続大学日本一！

2022年3月2日・3日、第1回東京フェスティバルが武蔵野の森総合スポーツプラザ（東京都調布市）で開催されました。

第17回全日本大学フットサル大会の代替大会として開催された本大会では、決勝に進んだ多摩大学体育会フットサル部が東京都大会決勝、関東大会決勝に続き、東京大学と対戦、接戦を繰り広げましたが見事勝利を収めました。

昨年夏に実施される予定だった第17回全日本大学フットサル大会が新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりましたが、今回の代替大会が行われることになったことで、2019年第15回全日本大学フットサル大会、2020年 KANSAI INTER COLLEGE CUP (第16回代替大会)、そして今般実施された2021年東京フェスティバル (第17回代替大会) で優勝することにより、3大会連続で大学日本一の栄冠を手に入れました。

4年生にとってはコロナに翻弄された大学生活でしたが、有終の美を飾ることができました。



2021年度第2回SRC (Student Research Conference)

2022年1月27日、オンラインにて「2021年度第2回SRC (Student Research Conference)」が開催されました。SRCは経営情報部の学生がホームゼミにおける研究成果を発表する場で、年2回(夏・冬)行っています。

今回は、新型コロナウイルス感染症の急拡大を受けて急遽Zoomによるオンライン開催となりました。当日は70件を超える過去最多の発表件数となり、卒業研究も含め熱意に溢れた発表がなされました。教員や参加学生からは様々な質問や意見、アドバイスがありました。



オンラインによる発表の様子

教室	時間	タイトル	名前	ゼミ名
A	L	[卒論] コロナ禍による日用品への影響	青木 一輝	久保田貴文ゼミ
	M	[卒論] 学内の消毒用アルコールの使用率について	安藤 七海	大森拓哉ゼミ
	M	[卒論] 血液型と性格の関係性	安田 星菜	大森拓哉ゼミ
	M	[卒論] ディズニープリンセスの時代変化に伴うイメージ調査	西内 瑞季	大森拓哉ゼミ
	M	[卒論] ブランドのイメージについて	久保田 彩音	大森拓哉ゼミ
	L	[卒論] プロ野球における四死球と失点について	千葉 珠紀	大森拓哉ゼミ
	L	[卒論] 学食は必要か	八木 稀央	大森拓哉ゼミ
	M	善中談について発表	光本 昂生	高橋恭寛ゼミ
	M	論民談について発表	阿部 翔太	高橋恭寛ゼミ
	M	赤色の印象操作	中園 龍斗、星野 岳、櫻木 悠一郎	大森拓哉ゼミ
	L	フリーソフトウェアを使ったニューロフィードバックシステムの改良・トレーニングの実践	佐藤 哲大	良峯徳和ゼミ
	L	地域の中心緑地から考えるコンパクトシティ	磯部 直樹	中庭光彦ゼミ
	L	機能的食品の摂取が脳波に及ぼす影響について～カフェインとGABA～	中川 皓太、桑原 心太、清水 翔、鈴木 心、酒井 翔斗、篠山 奏斗、星 遥斗、本多 海琉、八代 遼介	良峯徳和ゼミ
	L	VRを用いたダンスの練習用システム	杉山 直哉	出原至道ゼミ
	L	BCI(Brain-Computer-Interface)に挑戦II	山口 雄平、ラウ 佐光マシュー	良峯徳和ゼミ
M	稽古談を読んで	池末 英寿	高橋恭寛ゼミ	
M	フォークのサイズと満腹感実験	竹内 啓恭、彭 麟、鶴屋 隆之介、出縄 竜也	大森拓哉ゼミ	
L	テーマパークの役割	齋藤 愛瑛、鍋木 海月	杉田文章ゼミ	
L	港湾地域のまち開発と歴史的役割～横浜港事例より～	西田 翔一	中庭光彦ゼミ	
L	ポストコロナの新たな観光業の提案	小出 健人	中庭光彦ゼミ	
L	電子チケットと不正転売について	加藤 知真、加藤 秀斗、小林 明日香	齋藤 S 裕美ゼミ	
L	バーチャル高尾山とリアル観光との連携可能性の考察	馬部 裕基、高橋 勇登、松本 拓朗、伊藤 羽矢人、恩地 陸央	彩藤ひろみゼミ	
M	リノベーションによる土地開発	阿部 凌士	中庭光彦ゼミ	
L	地方都市のこれからのコンパクトシティ像と中心市街地像	篠原 光、荒井 四海、織田 一宏、山口 誠也	中庭光彦ゼミ	
L	国別調査 アラブ首長国連邦班「原油生産量と日系企業進出率」	諸橋 凜、関 文佳、寺垣 美南、溝尻 冴夏、山田 ゆい	水盛涼一ゼミ	
L	国別調査 中国班「中国の状況とビジネス」	小野 寛司、天野 真一朗、野中 柊希、山口 智弘	水盛涼一ゼミ	
L	国別調査 ドイツ班「生活と産業」	田中 彩佳、添田 鈴香、立川 紗弥、藤田 朱夏	水盛涼一ゼミ	
M	多摩大生の出世志向について	守屋 博喜、飯田 葵大、佐藤 涼太	大森拓哉ゼミ	
L	SDGsを用いた社会課題解決	今井 茉那、風間 遼太郎、小椋 雄太郎	杉田文章ゼミ	
L	スポーツマンシップを広めるには…	江成 竜哉、清水 直樹、藤田 峻輔	杉田文章ゼミ	
L	何故テーマパークはディズニー、USJ二強なのか 他のテーマパークに足りない物は?	戸内 健悟、寺岡 彰人	杉田文章ゼミ	
L	TamaRitmo! ～紆余曲折の1年～	宮腰 裕、佐藤 史彬	梅澤佳子ゼミ	
M	スマホの普及による小中学生の外出に関する変化	川上 由偉円、小野 直樹、宮村 瞭輔	齋藤 S 裕美ゼミ	
L	脳的事象関連電位 P300 を用いて動画視聴時の集中状態の違いを検出する試み	大島 健太郎、飯島 颯悟、丸山 優樹、三村 恭輝、伊藤 大貴、伊藤 龍斗、田口 卓光、丹羽 龍司、大島 健太郎	良峯徳和ゼミ	
M	HEG(脳の血中酸素飽和度)測定装置を用いて、活動中の前頭部における血中酸素飽和度の変化を測定する試み	津田 真結花、木村 もも、北村 遼太郎	良峯徳和ゼミ	
L	単式簿記と複式簿記の歴史と違い	井上 京亮、井上 弥時斗、高島 力輝、田中 智	木村太一ゼミ	
L	サッカーにおけるチャットの意義	本間 貴太	中村そのこゼミ	
L	今後の音楽産業について考える	後藤 瑠花、塚田 裕太	杉田文章ゼミ	
L	世代間交流八王子駅前サロンプラザプロジェクト コロナ禍における新たな取り組み	小池 翼	梅澤佳子ゼミ	
M	『失敗の本質』を読んでー日本軍と米軍の比較ー	漆畑 亮太	高橋恭寛ゼミ	
L	ARコンテンツをSNSに投稿できるサービスの開発	柳 真伸	出原至道ゼミ	
L	利他と組織	今平 峻也	梅澤佳子ゼミ	
L	北杜市の観光消費額増加案	荒金 匠、青木 悠吾、村山 昂大、吉田 武司、峯脇 由暉、今別府 大志	中庭光彦ゼミ	
L	サブスクリプションサービスの収益モデル構築と活用の可能性	大野 将来	中庭光彦ゼミ	
M	サブスクリプションの利用者の展望	天野 拳志、井戸川 航綺、上田 陸玖、後藤 優太	齋藤 S 裕美ゼミ	
M	東京オリンピック招致プレゼンのテキスト分析	濱木 蓮	今泉忠ゼミ	
M	奥多摩活性化プロジェクト「みんなでつくる奥多摩」活動報告①	大澤 舜、松本ゼミ経営企画部	松本祐一ゼミ	
M	奥多摩活性化プロジェクト「みんなでつくる奥多摩」活動報告②	奥山 大翼、松本ゼミ経営企画部	松本祐一ゼミ	
L	海外調査 環境保護班	田中 千尋、井上 滯夏、初田 有哉、原 武士、茂木 香樹	水盛涼一ゼミ	
M	『失敗の本質』「日本軍の失敗と現代の組織の関係性について」	矢原 尚幸	高橋恭寛ゼミ B	
L	オンライン学園祭実施を振り返って	濱 大貴、餘野 央果	彩藤ひろみゼミ	
L	オンライン学園祭で『世界の民族衣装ファッションショー』イベントを実施して	キンニシ	彩藤ひろみゼミ	
L	若者がより多くボランティアに参加するための案	岐島 拓登、前澤 美月、田中 海夢、堤 旬平	中村そのこゼミ	
M	持続可能な観光地に今の日本版 DMO は必要ない	梶本 凌平	中庭光彦ゼミ	
M	20チャンネル脳波測定用ヘッドセットの自作の試み	割田 大輝、安田 陸、若下 耕之助	良峯徳和ゼミ	
L	背景型ジュリレーション法による呼吸検出を利用した音楽演奏システムの開発	尾崎 真由子	出原至道ゼミ	
L	国別調査 カナダ班「投資先と脱炭素」	鈴木 一誠、長田 華山、羽田キッティバッド、藤原 由翔、森 巧光	水盛涼一ゼミ	
L	南足柄市における交通と経済	小泉 翔太	中庭光彦ゼミ	
M	見た目による影響	河内 颯斗、木村 達樹、関谷 歩夢	大森拓哉ゼミ	
M	心理学関連の検定問題について	大澤 貴光	大森拓哉ゼミ	
L	Webアプリを用いた対戦ゲーム向け練習試合募集用マッチングサービス	関 悠伍	出原至道ゼミ	
L	海外調査 情報技術班	柿崎 良太、桑原 悠、杉立 汐里、染谷 直希	水盛涼一ゼミ	
L	海外市場調査 金融班	田中 雄大、内海 悠斗、田中 奎多、中村 一翔、矢澤 晴也	水盛涼一ゼミ	
L	レジャーの選択肢に休息を!	椎原 悠貴、近藤 護、村田 あづな	杉田文章ゼミ	
L	近年のスポーツ消費者の特性から次世代のスポーツマーケティングを考える	藤井 嶺、川口 裕、柳 りこ、鍋谷 聖	杉田文章ゼミ	
L	幸福度を上げるための新婚旅行	安田 采永、石井 美帆	杉田文章ゼミ	
M	真ん中効果について	外山 依瑠奈	大森拓哉ゼミ	
M	アンカリング効果	近藤 雄太、高橋 大樹、谷部 翼	大森拓哉ゼミ	
M	ニューロフィードバックトレーニングが脳トレゲームの成績に与える効果の検証	麦倉 拓弥、春畑 遼太郎、福岡 悠恭	良峯徳和ゼミ	
L	多摩祭常設ワールド「洋館シューティング」を作ってみて	峰谷 孔彬	彩藤ひろみゼミ	
L	もしも古代エジプトに現代会計基準を適用したら	内田 慎吾、佐藤 哲大、今井 雄基、佐々木 秀崇	木村太一ゼミ	
L	人生100年時代の健康お茶が病を防ぐ!?	小飯塚 光生、有村 駿我、川村 紡希	今泉忠ゼミ	

飛騨高山 AL (アクティブ・ラーニング) プログラム 2021 を実施

飛騨高山 AL プログラム (担当教員:金 美徳、野坂 美穂、内藤 旭恵) を 2021 年 10 月 31 日 (日) ~ 11 月 2 日 (火) に実施しました。本プログラムは、「久々野まちづくり協議会」と「一般財団法人 飛騨高山大学連携センター」と連携し、都市部に居住する学生が飛騨高山に赴き、地域の方々とともに地域の課題解決に努め、学生目線での地域活性化に向けた提案を行うことを目的としています。5 年目を迎えた今年度は、「久々野のインスタ映え オブジェクト作成と考察」をテーマとし、18 名の学生と 4 名の教職員が参加しました。春学期に提案した内容の進捗状況を確認し、現地調査を行いました。また、高山市立久々野中学校の 3 年生と交流し、地元の生徒ならではの意見をいただきました。最終日には現地での活動を踏まえ、グループ毎に提案を行いました。



中学生との交流



集合写真 ※撮影時のみマスクを外しています

産官学民連携センター

大学コンソーシアム八王子「学生発表会」にて 経営情報学部 彩藤ひろみゼミが特別賞を受賞

2021 年 12 月 4 日・5 日、大学コンソーシアム八王子主催の「第 13 回学生発表会」が開催されました。

同発表会は、加盟する大学・短大・高専で学ぶ学生が自由な発想で研究成果やアイデアを八王子の企業や市民に発表し、自らの学びの成果 (研究成果) を論理的に説明し、相手に理解させるコミュニケーション能力を育むことで、日頃の学びを深めることを目的としています。また、他大学の学生との交流を図ることで今後の研究の活性化に役立てています。今年度は 201 件の申し込みがあり、2 日間で 199 件の発表が行われ、本学 経営情報学部 彩藤ひろみゼミの高尾山アスレチックグループの学生 (6 名) が「バーチャル高尾山でアスレチックゲームを企画」を発表、観光セッション部門で特別賞を受賞しました。彩藤ゼミは、「コンテンツビルダー集団として地域素材を利用したデジタルコンテンツを作り、その結果を地域に還元することで社会に活力を与える」ことをゼミ理念として掲げており、3DCG 制作をベースに活動を続けています。

オンライン多摩大学学園祭でイベントとして成果を得た彩藤ゼミは、今回の試みを通して感じたバーチャル観光の可能性について論じました。発表時点では、仮説段階でデータとして未検証でしたが、今後は利用者にアンケートを取るなどの手法を使って仮説を立証することで地域観光の発展に寄与することを目指していきます。



表彰状を授与

バーチャル高尾山サイト

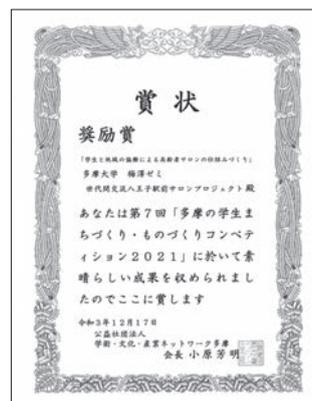


発表資料 (バーチャル高尾山)

「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション 2021」にて 経営情報学部 梅澤佳子ゼミが奨励賞を受賞

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩主催 第 7 回「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション 2021」では、12 大学・大学院から 43 団体の応募があり、8 チームが一次審査を通過しました。二次審査の結果、梅澤佳子ゼミの「世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト」が、奨励賞を受賞しました。

本プロジェクトは、2016 ~ 2021 年度大学コンソーシアム八王子「学生企画事業補助金」採択事業です。梅澤ゼミは、第 1 回「多摩の学生まちづくりコンペティション」(当時の名称) にて最優秀賞、奨励賞の 2 賞を受賞しています。「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション」は、多摩地域の課題解決をテーマに、若者が課外研究として企業や行政と連携のもと、地域活性化のアイデアを創造し、その研究成果を発表するものです。第 7 回となる今回は「学生アイデアによる地域活性化プロジェクト」のテーマで、新型コロナ禍において「まちという空間」が直面している課題と真摯に向き合っていくアイデアと実行力が求められました。



多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト

「多摩地域マイクロツーリズムコンテスト」報告会・ドラフト会議

2022年2月9日、KDDIリンクフォレスト（多摩市鶴牧）にて、「多摩地域マイクロツーリズムコンテスト 報告会・ドラフト会議」が開催され、大学生等により構成された7大学19チーム（会場発表10チーム・オンライン発表9チーム）が参加しました。

多摩大学経営情報学部 長島 剛ゼミは、このプロジェクトの企画・運営に、2021年5月に行われたエントリーから携わり、学生チームと企業・自治体とのマッチング会（2021年8月）や活動支援金を支給するための審査会（2021年9月）を経て、今回の報告会でも運営チームの一員として（1年生4名、2年生3名、3年生2名）業務を行いました。

2021年9月から2022年2月には、各チームが企画の実証実験を行い、最終審査の「報告会・ドラフト会議」に臨みました。1チーム7分でそれぞれのマイクロツーリズムの企画説明と活動報告を発表しました。その後、審査員により企画内容が優れた5チームが表彰されました。また、参加した企業には「次年度以降事業化に向けての協業」を期待する企画やチームがある場合は表明できる1社1枚の金シートが渡されました。

長期間に渡って運営スタッフの一員として企画・運営を行ってきた長島ゼミ生にとっても、参加企業や他大学とのコミュニケーションを深めることができる貴重な体験となりました。

主 催：多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト実行委員会

〈構成団体〉多摩市・稲城市・多摩大学総合研究所・京王観光株式会社（令和3年度多摩・島しょ広域連携活動助成事業）

後 援：観光庁、東京都、公益財団法人東京観光財団、東京都商工会連合会、多摩観光推進協議会



リアル参加による発表



オンライン参加による発表



運営スタッフ 集合写真 ※撮影時のみマスクを外しています

【多摩地域マイクロツーリズムプロジェクトの目的・意義】

近況のコロナウィルス感染症の拡大や長期化への危惧など、地域経済には今後起こりうる未知の禍にも対応可能な仕組みが求められています。このような状況を背景に、「多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト」は、地域における実用可能なマイクロツーリズムプランの構築による継続性のある地域活性化を目的としています。本プロジェクトでは、このマイクロツーリズムを「地元や近隣を含めた広義の観光まちづくり」と定義し、学生を企業や自治体のハブ役とすることで、コロナ禍で活動が狭められている学生に活動フィールドを提供し、学生の地域活動への取り組みを支援します。

